

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 令和 4年 5月14日
(108号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 学塾・中之島事務局

人間学講座
第115講

幸せな人生を歩むために
とても大切なこと
比田井和孝先生



■「やり方」と「あり方」

私は長野県上田市の上田情報ビジネス専門学校の（ウエジヨビ）の副校長をしています。普通、専門学校の仕事は、学生に資格を取らせ、就職させることです。私は学生には「資格を取ってほしいわけでも就職してほしいわけでもない。幸せになっ

てほしいんだ」と常々言っています。今から一八年前より就職対策授業を始め、私が担当を務めています。この授業では就職に関する話は一切行わず、「就職した後」の話をしています。何をやるにおいても「やり方」は大事です。しかしその土台となるもっと大事なものは「あり方」。どんな心構えでやるのか、どんな思いで、何のためにやるのか。ところが「あり方」は目に見え辛く伝え辛い。そうすると人はつい「やり方」にばかり捉われてしまう。例えば、仕事にはマニュアルがあり、それ自体は「やり方」ですが、人によってその結果が異なるのはなぜか？それはやり方が同じでも「あり方」が違うからです。マニュアルをこなすために使う人と、超えるために使う人、この違いは大きい。マニュアルを越えた部分が「仕事」となる。マニュアル通りに進めるのは単に「作業」。これからの時代は、作業ならAIの方がうまくやるでしょう。うちの学生には「君と仕事ができてよかった」と言われる人になってほしいのです。

■社会に出てからの幸せとは

ウエジヨビの創業者の佐藤勲は、昭和二十四年算盤塾からこの事業を始め、数年前には七〇周年を

迎えました。その間さまざまなことがありました。学生の推移から見ると平成元年一二七人、その後コンピュータの時代と言われ生徒は一気に増え、新校舎も建設しました。

平成七年私が入社、その後少子化も相まって学生数は減少してゆきます。校舎の建て替えなど設備投資をするも学生数は過去最悪に減少し、当時先生方は次々辞めていきました。いま振り返れば、なぜ学生数が減ったのかが解ります。それは我々職員に、学生募集への当事者意識がなかったから。本心にピンチがやってきたときには、もう変わるしかありません。そうしてようやく皆が当事者意識を持つようになり、パンフレットの見直しからはじまり、できることをやっていました。

学生数が伸び始めるとさらに欲が出て、広報のセミナーなどで技術を学び活かしました。「やり方」を学ぶと、その成果はすぐ結果にでました。当時ウエジヨビは飛ぶ鳥を落とす勢いでした。にもかかわらず、これでよいのか？という思いが湧いてきました。専門学校は資格や就職のための学びをするところです。資格を取らせて、念願の公務員試験に通ったらそれで幸せなのか？私は公務員課で山ほど学生を公務員にしました。第一志望の公務員になったというのに、不幸を味わう教える子がいる。公務員は落ちたが幸せな子もいる。何が違うか。その違いは、社会に出てから良い仕事をしているかどうかです。それは人間性にかかっている。資格も大事、しかしさらに大切なことは、人間性をも高めることだとウエジヨビは思い至りました。学校の「あり方」が変わったのです。

■人はだれでも役割を持っている

あり方が変わると出会いが変わります。船井総研の佐藤芳直先生は「社会に喜ばれるような人間を送り出すことができれば、あなたの学校には未来はない」と言い切られました。私の考えが一八〇度変わった瞬間でした。試験合格を目指す

人育ては、合格したときに喜ぶのは本人や家族・親戚等せいぜい二〇人ほどでしょう。しかし社会が喜ぶ人育ては、企業が、地域が国家が喜ぶ。そうして一番喜ぶのは自分自身です。それ以来、周りに信頼され、社会に必要とされる人を世に送り出すことがウエジヨビの仕事となりました。「人はだれでも役割を持って生まれてきている。働くということはその役割を果たすこと」この佐藤先生の言葉は私の人生を左右するほどの衝撃でした。

ウエジヨビの三つの約束「挨拶」「掃除」「素直」、これは島根県の自動車教習所エムランドから学んだことです。ここではたった二週間の教習期間で若者たちが皆挨拶できるようにするのが、しかし、三つの約束を九〇分の授業で学生に伝えるのはなかなか困難なことでした。説教じみて聴こえるのでしよう、露骨に否定的な学生もいました。さすがに私も辛いときがありました。これこそが自分の役割だと取り組みました。当時入学する学生は減り続けていましたが、かつてのように辞める先生はいません。今の私たちのやっていることに間違いはない、その先に希望がありました。そんなとき、妻の書き続けていたメルマガが評判となり、それをきっかけに出版につながりました。

現在学生数は正直伸びているわけではありません。しかし、今ウエジヨビに来る若者の多くは「成長したい」「変わりたい」「公務員になりたい」というだけでなく良い仕事がしたい」という思いを持って来ています。かつてと違い学生が受け入れ態勢ですから、授業する私も楽しいのです。やり方を上手くすれば結果はすぐ出る。あり方を磨いても結果の出ないときもある。しかしこれからも、私たちは目指すことをぶれずにやっています。

(抄録 中川千都子)

《感動語録集》

◆ 比田井和孝 先生

「幸せな人生を歩むために
とても大切なこと」

＊ 最近、公の器である企業を私物化し、私腹を肥やす経営者が多い中で、佐藤勲様は本物の経営者であると感じ心が洗われました。人は晩年その本質が問われると言いますが、佐藤様は微塵も変わられることなく、全身全霊を学生たちの為に注いでおられる姿は驚きであり、本物の経営者であり、偉大な人物であると思わせていただきました。

＊ 幸せな人生を歩むためにとても大切なことあり方を磨くことが大切「どんな思いで・どんな心がまえで・何の為にやるのか」のあり方を高める為に具体的に実践・実行していく。
三つの約束と希望

「挨拶」… 自分を育てる。

「掃除」… 気づく心を育てる。

「素直」… 自分を変える。

＊ あり方を変えれば出会いが変わる。

＊ 世の中、ベストな選択など存在しない。

この選択をベストにすること。

＊ お客様は、企業・社会・世間。社会で喜んでくれるような人を一人でも送り出せば多くの人が喜ぶ。

＊ 就職対策授業こそ自分の役割と思うと、人生の道が開けてエネルギーがわいた。

＊ 社会に出て喜ばれる人を創る。

＊ マニュアルは、こなすため無く超えるためにあるもの。

超えた後のあり方が違ってくる。

＊ 「働く」とは、自分の役割を果たすため。

＊ あり方を磨いても結果につらがないこともある。

＊ 社会に必要とされて周りに喜んでもらうことができる人を送り出す。

母親として、子育ても同じだと感じました。

＊ 学生は、商品。お客様は、企業・社会・世間。

＊ 人は役割を持って生まれてくる。
仕事は役割を果たすために働くこと。



《森 信三先生に学ぼう!!》

★ 脚下の実践

人はそれぞれの年代に応じて真剣な生き方をして参りますと、七十歳代、八十歳代は、まことに自由闊達な境涯に恵まれて、真の生き甲斐ある人生が送れるのではないかと思われます。人生の見通しを立てるとともに、いま一つ、脚下の実践にどれほど真剣に取り組めるかどうかということこそ、その人の人生に対する徹見透察の如何によるといってよいかと思われます。

★ 実行

「われわれ人間は実行しない限り、実は全然知らないのと同じだ」 これは王陽明という中国の哲人の教えですが、われわれ人間は、頭の中でどんなに立派なことを色々考えたとしても、実地にそれをやらなかったとしたら、それは夢まぼろしに過ぎないといつてよいでしょう。

★ 引き金を引く

読書は、いわば鉄砲的をねらうようなものです。しかしいかにねらいは定めても、引き金を引かない限り、一向恐ろしくないでしょう。引き金を引くとは、実行ということです。そこでどんなに本を読んでも、実行の心がけないような人間は、恐れるに足りないのです。

★ 修養

人間の修養は一つずつである。その時その時、自分の為すべきことを正確に行うことである。

(森 信三先生

『運命を創る一〇〇の金言』より)

《わたしのハガキ道》

西川由美子

私の複写葉書との出会いは、中島和之様から複写葉書が届いた事から始まりました。

2009年 森信三先生の読書会で『一日三信』と習いましたが、お葉書一通52円×3で1日156円。30日で4,680円かかります。当時の私には自由になるお金が少なく「勿体ないわー。一日三枚も書けないわー」と思っていた私に、中島和之様から複写葉書が届いたのです！複写葉書の使い方が分からず、しばらく脇に置いて眺めていました。ところが中をよく見ると説明書が入っているではないですか！？それを見ながら二〇〇九年十一月二十四日に初の第一信目を、中島和之様に宛てました。

複写葉書を始めると、毎日ポストに2〜3枚入っていて返事に終われる毎日でした。お返事を出すと又お返事が返ってくるのでそのうち息が切れてきました。そして、溜まると1日で5〜10通書く事になるので、やはりコツコツと毎日書いた方がいんだなあと感じました。「一日一枚書く」と、一枚は減る。」(笑)

今はあの頃と違い、たまにお葉書が来る程度なので辛かったお葉書が今は嬉しいお葉書に変わりました♪
今のお葉書の活用は、新しい人に出逢った時のご縁結びに活用させて頂いています。又、寺田先生の三男公男様の妻佳美先生に『己書』を習うようになると、筆で絵や文字を描くのがお葉書の楽しみにもなりました。体調にムラがあり、頭がぼーっとしている時は書けないので、そんな時は無理せずに元気になったら書くこととお葉書を溜めてますが、私にとってのハガキは今は相手と心を繋ぐツールとなっています。中々お返事を書けませんが気長に待っていて下さると嬉しいです。ありがとうございます。

《塾生の本棚から》

田中喜一郎

『五月の螢』は人間学塾でも何度か講演をして頂いた、石川真理子先生の著作です。

大東亜戦争末期に連合艦隊司令部において次期作戦会議で、来たる沖縄戦をいかに戦うか、「全軍特攻編成」と決まった。その時に末席に収まっていた美濃部正少佐は、居並ぶ航空艦隊司令官、参謀長、幹部たちを前にして「恐れながら申し上げます、全軍特攻と言いますが、特に速力の遅い練習機までも駆り出しても、十重二十重のグラマンの防衛網を突破することは不可能です。特攻のかけ声だけでは勝てません」と異議を訴えます。

誰もが冷静な判断力を失う窮地にあつて、しなやかな理性と揺るぎない信念にもとづき、愛する者の為に戦った美濃部少佐。彼の人間性と勇気ある生き方を主軸に、終戦まで米軍を震え上がらせた夜襲攻撃隊「芙蓉部隊」の隊員たちと、彼らの基地を支えた鹿児島大隅半島岩川の人々、そして、母や妻との愛や絆を描くノンフィクションです。

「死を覚悟して」戦った美濃部少佐、芙蓉部隊の隊員、大隅半島岩川の人々の生き様が、平和な時代を生きている私に大きな衝撃と感動を与えてくれました。そして、今この時点においてもロシアがウクライナへ侵略戦争を続けています。多くの市民が虐殺されている現実をニュースで知るたびに、祖国を守る事の厳しさ、そして守る事で多くの犠牲を強いられる現実を痛感させられます。

大東亜戦争で祖国を護らんとし、勇敢に敵中弾雨をおかし突撃し、又は南海の海中深く孤独な作戦に死闘、或いは孤島守備に玉砕するまで戦った幾十万の将兵たちと、ウクライナの将兵と国民が私には重なつて見え

てきます。

改めて思うのは、国を守るといふ事は、又平和な社会を維持していくという事は、当たり前的事ではなく、国民自らが何らかの行動を起こさねばならない。どこかの国も国際機関も守ってくれない事を痛感しました。

【書籍紹介】



出版社 致知出版社
頒価 一、七六〇円
発売日 2021/3/11
ISBN-10 : 4800912512

人を育てる道

神渡良平 著



著者 石川真理子
出版社 内外出版社
頒価 二、二〇〇円
発売日 2016/10/30
ISBN-10 : 4862572898

イエローハット創業者・鍵山秀三郎氏も感動!!
「この書は私たちに一番必要とされていることは何かを、気づかせてくれます」
本書は、「伝説の教師」とも呼ばれる氏の生き方や教育の原点に迫るのみならず、数々の実話を通して「人を育てる極意」が示されています。特に印象的なのは、「炭焼きの子」と同級生から馬鹿にされた柴藤清次さんの話。家が貧しく、ろくに学校に通えなかったという彼に、徳永先生は「おい、清次君。今夜、宿直室に來い。親代わりに、俺が抱いて寝よう」と声をかけます。このことを転機に柴藤さんは自らを変え、自動車学校の優秀な教官となりました。いかにその人の人間的価値を引き出し、心に灯を灯し続けていくのか……。人の上に立つすべての方に役立つ学びが凝縮された一冊です。

《人間学塾・中之島》次月日程

【6月日程】

◆ 日程 6月11日(土曜)

受付 午後0時～

◆ 会場 大阪城ホール内

コンベンションホール

◆ 講師 喜多川 泰氏

「一歩踏み出せば人生は変わる」



1970年愛媛県西条市生まれ。
2005年『賢者の書』でデビュー。
その独自の世界観は読む人の心に温かい明かりを灯すと定評がある。神奈川県横浜市と大和市で学習塾「聡明舎」を経営。講師として教壇に立ち、「勉強」を通して、人生との向き合い方を若者たちに伝えている。全国で講演活動も行っている。『賢者の書』『手紙屋』など著書多数。

【卒塾文集寄稿原稿提出の件】

* 刊行 8月13日予定

* 原稿提出締切 6月末日

* 詳細は、提出案内を参照ください

《第十期予定》

7月9日 大阪市中央公会堂(大会議室)

岩崎順子氏

8月13日 大阪市中央公会堂(大会議室)

■ 第十期 卒塾式

《芳信抄》

埼玉県 山下武彦様

石平先生のご講話は、実にわかりやすいお話でした。「王の時代」王たちは「天下為公」を貫き、民衆の反乱は無かったが「皇帝の時代」は、「天下為私」で民衆の反乱により興亡が繰り返されたとのことでした。そして近現代の毛沢東も、習近平も、共産党独裁の皇帝政治であるということです。

コロナへのゼロ政策や、ウイグル人弾圧そして女性蔑視とされる事件等、全てその視点で理解できるように思われます。権力による現状変更で、日本をはじめ多くの国々が迷惑を受け不安に駆られています。中国やロシアの国内民衆が立ち上がることを願います。

宮城県 加藤秀夫様

野依様・中川様お二人の講話抄録に大変感銘を受けました。石平先生の王朝時代の為政は、「天下為公」皇帝政治は現在にも続いて「天下為私」の政治が行われている。孔子を利用しながら、ウイグル人弾圧やジェノサイドが公然と行われている。ロシアのプーチン政権と習近平は同じ過ちを犯している。

埼玉県 大出雅一様

複雑極まりない中国四千年の歴史を、王の時代と皇帝の時代という概念で簡潔にまとめてくださっています。王の時代は「天下為公」に、皇帝の時代は「天下為私」に結びつく。民の心を思い暮らしを豊かにするのが政治であることを考えれば、どちらの時代の政治が良いかは一目瞭然です。今日の中国の様子から判断すると、「天下為公」とは言えないように思います。

それは福島香織先生のお話しの中に出てきます。ジェノサイドを行いウイグル人を苦しめている国内の一人ひとりの考えを尊重しない習近平の独裁ぶりは、国民全体を幸せにするものではありません。

岡山県 柴田久美子様

石平先生のお話しを拝読するわたしのもとに、中国で翻訳出版した『看取り士』を読んでもくださった方から、「看取り士学」を受講して看取り士になり、中国の方々のお役に立ちたいとの熱いメッセージを頂きました。

愛媛県 桂 誠司様

石平先生、福島香織先生の話は、予期せぬことばかりでした。中国が孔子を捨て、論語を学ばないのなら、人としての教育はどうなっているのか？

愛知県 坂部智一様

中国では、農村と都会で戸籍が分かれているなど、中国の制度上の問題で、幸せから離されていることを学ばせて頂きました。

皇帝の思想がいまも残っていることを教えて頂きました。ウクライナがへのロシアの侵略を見て、止められない哀しい気持ち、国々の協調によって、早く侵攻を止めることが、東アジアの平和に必要だと改めて思いました。日本が、ウクライナのようにならないためにどうしたらと・・・!!